

# 魅力満載!! 三江線

## 江の川沿いの風情



《18》

江の川流域には、由緒もなく、「行基や空海のある寺社が点在しているにご縁のあるお寺があるが、中でも、江津市桜江町の高野山真言宗・宝生山「甘南備寺（かんなみじ）」は、屈指の名刹（めいさつ）と言えるだろう。

奈良時代に行基が開山し、弘法大師空海も巡遊したという。行基といえば、東大寺の大仏造営をはじめ、全国に多くの寺社や橋、池道などを建設し、社会事業に尽力した高僧で「行基菩薩（ぼさつ）」と称されるほどだが、私

が当地に引越して間、平安末期の作で、その美しい名の大鏡は復元され、同町の今井美術館に展示されている。私も何度か見る機会を得たが、その名の通り、黄櫨（ハゼ）の紅葉のグラデーション

さらには、甘南備寺には、国指定重要文化財「黄櫨会」を得たが、その名の通り、黄櫨（ハゼ）の紅葉のグラデーション

これは、丸山城主であった小笠原長旌（ながはた）が、天正十七（一五八九）年、戦勝祈願のため先祖伝来の大鏡を寄進奉納したものとのことだが、平安末期の作で、その美しい名の大鏡は復元され、同町の今井美術館に展示されている。私も何度か見る機会を得たが、その名の通り、黄櫨（ハゼ）の紅葉のグラデーション



奈良時代に行基が開山したと伝えられる甘南備寺

を模した色合いが美しく、往時の人々の自然を愛（め）でる心と、優れられる。また、秘仏の虚空蔵菩薩像は、鹿（しか）に化身して飢える僧たちを救ったという伝説も残されていて、今も「鹿賀」という地名が残る。

このありがたい虚空蔵菩薩像は、何と五十年に一度しか開帳されず、次の機会は、二〇一八年ということだ。あと十年先となるが、今から楽しみにしている。

さて、今回久しぶりに訪れた甘南備寺は、雪化粧を施し、いつにも増して荘厳な雰囲気包まれ、自然と頭が下がる思いであった。

数年前に国道がかさ上げされ、今は境内からは見えなくなった江の川だが、時を超えてゆったりと流れるその姿に歴史のロマンと重みを感じる。

（NPO法人「結まいるプラス」・かわべまゆみ、江津市桜江町在住）

隔週土曜日掲載

## 甘南備寺

# 行基が開山 空海も巡遊